令和８年度　第１回三重県認知症施策推進会議　議事概要

日時：令和８年１０月７日（水）18：30～20：00
場所：オンライン Web システム（ZOOM）

１　出席委員　１３名

由井委員、新堂委員、原口委員、冨本委員、藤田委員、三吉委員、中嶋委員、中川委員、柴田委員、伊藤強委員、山本委員、伊藤美知委員、髙井委員
傍聴者なし

２　報告事項

（１）「みえ高齢者元気・かがやきプラン（第９期介護保険事業支援計画・第 10 次三重県高齢者福祉計画）」における認知症施策の取組状況について　資料１・２

（委員）
初期集中支援チームについて、令和６年度のデータで６割が連携につながったとのことであったが、実数はどのくらいになるのか。また、地域包括支援センターの初期集中支援チームの介入数は、実際にどのぐらいになるのか。
（事務局）
県全体として、実人数は 627 人、延べ 2,137 件であった。
（委員）
４月から６月までの報告があった認知症コールセンター事業について、７月から９月の３か月で 79 件の相談を受けた。
（委員）
チームオレンジが 28 市町に設置されたとのことであるが、どのような取り組みによって設置が進んだのか。
（事務局）
オレンジチューターの派遣を継続して行っており、要望があった市町に対してチューターを派遣している。また、研修会において活動の様子や申請様式などを周知することによるものである。
（委員）
チームオレンジがどのような活動をしているのか、教えていただきたい。
（事務局）
認知症サポーター養成講座に参加し、サポーターに向けて自身の思いや活動内容を伝える活動やご本人の自宅に出向いて活動を実施している事例などがある。
（委員）
認知症初期集中支援チームの介入数が 627 人で、全国の地域包括支援センターの数が

6,000 なので、県下に 100 はあるとすると、１施設あたりの介入数が６人となり、少し少ないと思う。パーセントで出してしまうと実態が見えなくなるので、地域包括支援センターあたりの年間介入対象者や介入件数も一緒に示していただけると、実態が見えて、より改善につながると思う。

（２）三重県認知症施策推進計画について　資料３・４

（委員）

三重県の認知症施策推進計画に基づいて市町が計画を立てていると思うが、現在の進捗状況を教えていただきたい。

（事務局）

４市町の確認ができていないが、それ以外の市町は全て令和８年度に計画を策定する方向である。

（委員）

安全運転サポート車の周知啓発を行うとあるが、安全運転サポート車には基準があるのか。認知機能が落ちている方にお勧めのものがあれば教えていただきたい。

（事務局）

衝突被害の軽減ブレーキやペダルの踏み間違いの急発進抑制装置等を備えている自動車である。

（委員）

これに対して県から補助は出るか。

（事務局）

県から補助はしていない。

（委員）

現場の話をさせていただくと、初期集中支援チームが関わるケースとして、軽度の方はそこまで多くなく、中度、重度になった時に、家族が抱え切れなくなってから関わってくるケースが大半である。通常、家族が受診に行くことを説得して連れて行く方々は、チームを通らずに受診につながることが大半で、受診に繋がらない難しいケースがチームに流れてきているのが現状である。スクリーニング等、各市町でどんな仕組みの中で軽度の方を見つけ出すのか、困難事例の相談が発生してくることを鑑みると、早期発見の課題が残っていると受け止めている。

（委員）

認知症希望大使を約一年勤めさせてもらったが、私自身は目標が出来たということで楽しいと感じている。ただ、気になることは、私の活動を支援してくれる方が大変だと思っている。彼らは仕事を持っており、善意で私の支援をしてくれているが、それも限界を越すのではないかと感じている。私は一人では活動ができないので、支援者を支援する体制を作っていただきたい。

（３）「みえ高齢者元気・かがやきプラン（第 10 期介護保険事業支援計画・第 11 次三重県高齢者福祉計画）」における認知症施策について　資料５

（意見なし）

（４）その他

（委員）

抗アミロイドβ抗体薬について、県内の治療施設が増えない問題があり、私どもの病院でも数ヶ月待っている患者がいて困っていたが、11 月に皮下注製剤が発売されることになった。処方医が講習を受けないと実際に治療が開始できないので、学会で 11 月には E ラーニングが開始できるよう準備が進められている。そうなると自宅で治療ができるようになるので、かなり患者が楽になると思われる。

（委員）

連携型の認知症疾患医療センターについて、診断後等支援機能で令和５年度から７年度にかけて診断後等支援実施件数が 78.5%から 96.1%になり、かなり上がっていると感じたが、実際にどのようなことをすれば１件にカウントされるのか。地域包括支援センターへの相談も１件と数える取り扱いでいいのか。96.1%という数字だけでは事業の質自体が評価できず、県としてどのように評価しているのか。

（事務局）

医療介入調整、介護サービス投入の調整、インフォーマル資源へのつなぎ、行政等の関係機関への紹介、社会資源の情報提供、ご家族や介護者の心理的サポート、日常生活の過ごし方やケア等の助言など多岐に渡るが、こうしたことを行った場合に件数としてあげている。

（委員）

成年後見制度の中核機関の設置が 26 市町ということで、３市町で設置されていないことを残念に感じる。今後、社会福祉法の改正によって、権利擁護支援相談センターという形で市町の努力義務となり、中核機関を設置していない市町は今後どうしていくのかが気になるので、引き続き、市町へのアプローチが必要と考える。今後、成年後見制度も制度自体が大きく変わってくるところで、認知症の高齢者も含めて権利擁護が必要な方の支援のあり方というのを考えていく必要があると思っている。意思決定が重視されるような改正内容になるので、我々も研修など協力できるところは協力しながら一緒に進めていければと考えている。

（委員）

認知症初期集中支援チームについて、出てくる問題を同じメンバーで解決しようとすると、同じところで詰まってしまう。同様のことは他の市町でもあると推察する。行政、地域包括支援センターの方々は、それを埋め合わせる勉強会などがあると思うが、初期集中支援チームに参加している医師の横のつながりがあれば勉強になると思うので、提案させていただきたい。

（委員）

チームオレンジのコーディネーターとして活動する中で、特に南や北の郊外の方で一番困っていることが交通手段だと認識している。認知症の方をサポートする方々も高齢化が進み、車の運転ができないなど、良い取り組みをしてもそこまで行ける手段がない。事故に繋がることも含めて、交通手段の方法を抜本的に見直していかないと、使えるものも使えず、生活も難しくなるなど色々なことが起こってくることを痛切に感じている。

（委員）

病院に行った時に感じたが、受付から外来への経路が長く困っても職員が忙しそうで声をかけられない。東京に行った時に、床面表示がありいいなと思った。三重県でもスーパーマーケットなどで取り組まれているが、そうしたことをしていただけるとありがたい。先月はアルツハイマー月間で、図書館にも関連本が棚に置いてあったが、今月はバラバラなところに置かれている。伊勢市では通年常設したというような話を聞いたが、近くを通った人が何気なく手にとって、目的がなくても選んでいただけるようになってくれるとありがたいと思う。人権センターでは、一つのコーナーに認知症のビデオや本が置いてある。

（委員）

今後は全国的にも三重県でも認知症、かつ独居高齢者が増える見込みだと思うが、支援者は大体家族で、遠方にいたり別のところに住んでいることも多いと思う。その際に、中で倒れているのか、どこかに行っているのか分からず、現場で困ることがある。そこで、周りや近所の方々が気にかけることはもちろんだが、家の中をどのように見守りをしていくのか、家族が出来ることとして、例えば見守りカメラであったり、合鍵を置いておく鍵ボックスであったり、そうしたことができるといいと思う。また、別の切り口になるが、若い時もしくは認知症になる前から、どのように生活をしたいのか、最後をどう迎えたいのかという観点で、ＡＣＰなど早めに意思表示していただくための施策を打っていただけると、望んだ生活により近づくのではと思う。

（委員）

若年性認知症で警察にお世話になる方が増えている中で感じたこととして、認知症の方に会ったことがなく、親族の中にも認知症の方がいない警察官がいることを聞き、地域に密着している警察官に、認知症はどういうところを見たら分かるのかなどをお伝えした方がいいと思う。また行方不明者も年間 10,000 人を超え、そのうち亡くなる方もたくさんいるので、未然に防ぐ方策も必要ではないかと思っている。警察とも横のつながりを持って、意識的にアプローチをかけていくという活動を県でもしていただければと思う。

（委員）

この会議に参加していて、民生委員・児童委員の役割が一つも出てこない。民生委員・児童委員は地域を回り発見して繋ぐという大きな役割があって、4,251 名の会員がいるが、皆さんそれぞれの地域で横のつながりを持って頑張っていることも理解していただきたい。日頃の見回りをしている民生委員・児童委員の苦労も理解をしていただきたいと思う。

（委員）

先ほど警察への啓発の話が出たが、私も成年後見の関係で色々な中核機関と付き合う中で、中核機関が金融機関に聴き取りを行った際に、認知症を疑われる方をどこへつなげばいいかわからないという話があるというご意見をいただいた。成年後見サポートセンターが相談に乗るという話をしているところもあると聞いているので、色々なところで認知症への理解が深まっていくといいと思う。